

《キーワード》 歯周組織、歯周病、歯周病原菌、免疫応答、リスクファクター、歯周治療、再生療法

《担当者名》 古市 保志 長澤 敏行 森 真理 加藤 幸紀

【概要】

歯周病が口腔内における感染症であることが明らかにされてから50年が経過している。その間に歯周病学は著しい発展を遂げ、歯周病の病因・病態について解明が進み、また、効果的な歯周治療法が確立されつつあると言えよう。しかしながら、未だに日本人の70%が歯周病に罹患していることから、今後更なる病因の解明とより効果的な治療法の開発が望まれている。

このコースの目標は、歯周病学における基礎研究・臨床研究の実践に必要な知識と手技を身に付けるとともに、将来的な歯周病専門医の資格取得をめざし、講義・実習によって、歯周病の疫学、病因、病態、治療法について理解を深め、臨床実習によって個々の症例に応じた的確な歯周治療の実践のために必要な知識と技術を修得することである。

【学修目標】

1. 様々な歯周病の病態を説明できる。
2. 歯周病罹患を疫学的な観点から説明できる。
3. 歯周病の病因及び全身的・局所的なリスクファクターを説明できる。
4. 歯周病学関連の基礎研究に用いられる手技を理解し応用できる。
5. 歯周基本治療の目的と処置法について理解し、症例に応じて実践できる。
6. 歯周外科治療の目的と処置法について理解し、症例に応じて様々な術式を実践できる。
7. 歯周組織再生療法の目的と術式について理解し、症例に応じて実践できる。
8. 包括的な歯周治療を症例に応じて実践できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ                          | 授業内容および学修課題  | 担当者 |
|---|------------------------------|--|-----|
| 1 | 講義                           | 1) 歯周病の疫学、病因、病態、治療法<br>2) 各種 in vitro 研究の実際と用いられる分析方法<br>3) 各種 in vivo 研究 (動物実験)の実際と用いられる分析方法<br>4) 学会発表及び論文作成 |     |
| 2 | セミナー                         | 1) 症例検討会の開催<br>2) 基礎・臨床研究論文妙読会の開催  |     |
| 3 | ブタの下顎を使った歯周外科手術及び歯周組織再生療法の実習 |  |     |
| 4 | 臨床実習                         | 1) 担当患者への歯周基本治療の実践<br>2) 歯周外科手術及び歯周組織再生療法の見学及び介助<br>3) 担当患者への歯周外科手術及び歯周組織再生療法の実践                               |     |

【評価方法】

出席状況、提出物、臨床症例

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【備考】

専門医取得に必要な症例数の半数以上があること。

【学修の準備】

事前に提示した到達目標に合わせて、関連資料の収集・文献講読をしておくことが望ましい。